

モビリティ・マネジメント教育（交通環境学習） 支援事業の趣旨および方向性について

令和6年8月28日

南城市MM教育推進委員会

1 モビリティ・マネジメント教育（交通環境学習）支援事業の概要

- 公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団では、小中高等学校におけるモビリティ・マネジメント教育（交通環境学習）の普及を図るため、教員支援、自治体支援を行っています。
- 支援期間は原則３年間で、委員会運営費、モビリティ・マネジメント教育実施費用が資金面（上限 250 万円）での支援内容となっています。

表 1.モビリティ・マネジメント教育（交通環境学習）支援事業の概要

項目	内容	
事業の目的	小中学生・高校生を対象にしたモビリティ・マネジメント教育に取り組む地方公共団体に対して、ノウハウの提供や資金面での支援を行い、継続的に実施するための拠点づくりを目的として実施する。	
支援内容	①実施面での支援	情報提供、及び情報収集の支援
	②資金面での支援	支援対象経費 ・委員会運営費 （委員及び講師への謝金、旅費交通費、会場費等） ・モビリティ・マネジメント教育実施費用 （業務委託費、印刷製本費、資料等の購入費用等）
		1 プロジェクトにつき、1 年あたり 250 万円程度
	③支援期間	原則 3 年間
申請資格	本事業の応募資格者は、都道府県又は市区町村とする。2 度目の申請を行う場合は、前回の支援終了後から 5 年以上経っていることが必須となる。	
選定方法	受理した申請書は、「モビリティ・マネジメント教育（交通環境学習）普及検討委員会」において審査を行い選定する。なお、必要に応じてヒアリングなどにより申請内容の確認を行う。	
実施期間中の確認	エコモ財団は支援団体が開催する委員会に事務局として参加するとともに、授業を見学する。また、複数年に渡る事業であっても、年度ごとに支援申請をし、実施計画等の確認を行う。	

2 南城市における事業概要

- 今回、南城市では「市内線バス「Nバス」を活用した交通環境学習」事業が採択されました。1年目は、佐敷小学校においてNバスを活用した教育プログラムの検討・実施、2年目は取組のブラッシュアップ、3年目は市内全小学校への展開を予定しています。

表 3. 市内線バス「Nバス」を活用した交通環境学習事業の概要

項目	内容
事業の目的	本市では、公共交通の見直しを進める中でNバスの運行が始まったが、地域間で利用に差が見られる状況である。その状況を踏まえ、子ども達を対象にNバスを活用したモビリティ・マネジメント教育を推進し、公共交通の理解を深めることを目指す。
実施体制	有識者を中心に、市民団体、対象小学校の校長、教員、市教育委員会、関連部署などで構成される実行委員会が事業を進める。
実施概要	1年目は佐敷小学校をモデル校に地域資源であるNバスを活用した教育プログラムを検討・実施し、学習ツールの作成も行う。2年目はその取り組みをブラッシュアップし、3年目には市内全小学校に展開する。 取り組みの成果として動画などを作成し、Nバス車内や学校・市のHPで情報発信を行い、利用促進と自己肯定感の向上を図る。

表 4. 市内線バス「Nバス」を活用した交通環境学習事業のスケジュール予定

	令和6年度	令和7年度	令和8年度
4月			
5月		実施計画の検討	実施計画の検討
6月		①第1回委員会 ▲ 授業実施・副読本(別冊)検討	①第1回委員会 ▲ 授業実施
7月	▲ 実施計画の検討 関係者調整		▲ 副読本(別冊)策定
8月	▼ ①第1回委員会		
9月	▲ 授業実施 ▲ ツール検討・作成	②第2回委員会	②第2回委員会 ▲ 全小学校実施
10月			
11月	②第2回委員会 ▲ 視察		
12月	▼ ▼		
1月			
2月	▼ ③第3回委員会	▼ ③第3回委員会	▼ ▼ ▼ ③第3回委員会
3月	完了報告書提出	完了報告書提出	完了報告書提出

3 授業の進め方（案）

実施に向けて

項目	内容
実施	・総合的な学習の時間を活用し授業を実施。 ・45分授業を週2回実施。
実施に向けて	・子どもたちが自主性・主体性を持って考え、子どもたち自身が決定するものとし、大人は子ども達の「やりたい気持ち」を実現できるよう、子ども達の興味・関心を引き出すことを意識した助言・手法を検討する。 ・授業展開を踏まえ、有識者による授業を実施する。

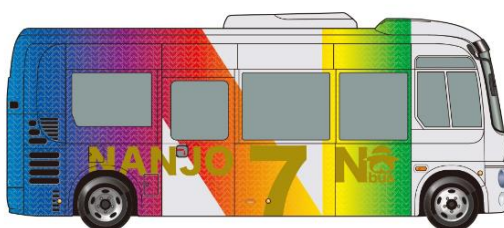
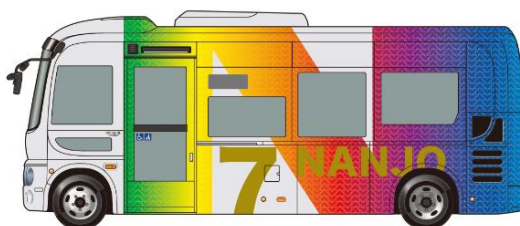
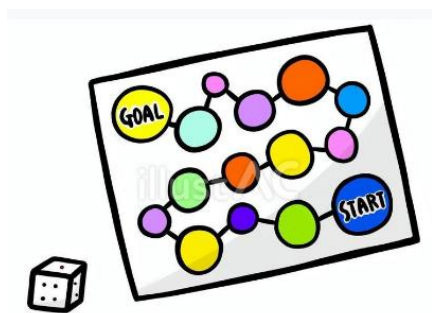
授業の進め方のイメージ

項目	内容
方向性の検討	・実施の方向性を絞る。 ・1学期の学習やその後の生活経験を通して、設定したテーマについてのイメージをふくらませる。
Nバス乗車	・地域・環境等の視点から子ども達が考える課題の発見に繋げる。
課題の設定	・「不思議」「調べたい解決したい」「やってみたい」等子どもの声を聞き、教師のねらいとすり合わせ課題を設定する。
解決方法を検討	・課題の設定と同時並行し、調べたいことを選定しながら、「Nバスの活用」につなげる。
情報整理	・調べた情報を分類・整理する。
考察	・分類・整理したところから課題について、考察しまとめを行う。 ・課題に対するアイデアを色々出してもらう。 ・制作に向けて取り組む。
振り返り	・問題解決の学びについて振り返り、次の学びへの展望をもつように促す。
発表	・実施してきたことを発表する機会をつくり、子どもたちの体験的・探究的な学びにつなげる。

※各項目の時期等は、進み具合を鑑み教師の判断で実施する。

4 ツール等の検討方法

- 授業内で継続的に実施出来る仕組みとして、子ども達の意見も取り入れながら、学習ツールの作成を検討していきます。
- ツールの作成にあたっては、子ども達にアイディアを出してもらう方向で進め、腹案として、Nバスすごろく、Nバスかるた、Nバス紙芝居等、Nバスをベースにした何かしらのツール等を想定しております。



5 視察研修について

- エコモ財団の本事業を受託し、モビリティ・マネジメント教育を実践している学校を軸に視察先を検討していきます。
- 現在の候補地としては、幼少期から地域の公共交通に親しみや関心をもち、地域の問題や環境問題解決に繋げる取組を実施している「滋賀県古賀市」、交通と環境に関する意識の醸成を促すため、富山市版交通環境学習プログラムを確立し、具体的な交通環境学習に取り組んでいる「富山県富山市」を上げております。

交通環境学習の実施

県や市の職員・公共交通運行事業者が学校に伺い、実際のバス車両を学校に持ち込む出前講座や、電車の乗り方の座学や実習等を行っています。例えば、公共交通を利用した校外学習の事前学習として、生活科の授業でバス・電車の乗り方教室をご活用いただけます。乗車マナーや切符の買い方等を学習できる教材をご用意しています。各学年の授業のねらいに合わせた学習については、学習展開例をご覧ください。

👉学習展開例はこちら

※他学年向けの授業であっても内容次第では実施することが可能ですので、ご相談ください。

※校外学習の運賃補助制度をご活用いただける場合もあります。詳しくはこちら

活用事例



(1)バスの乗り方教室



(2)車いすでの乗車体験



(3) 鉄道すごろく



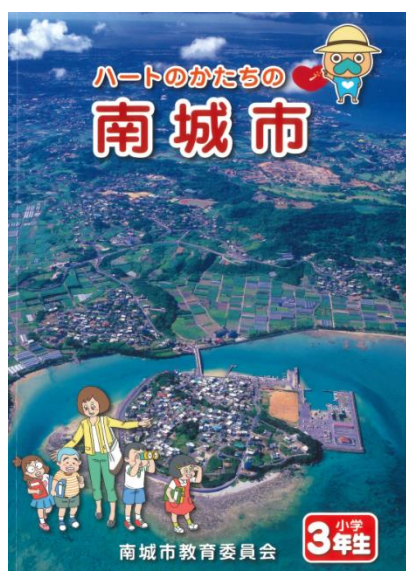
古賀市HPより引用

[illegible]

富山市都市整備部交通政策課資料引用

6 副読本策定に向けて

- 現行の副読本は、Nバスが運行する前に作成したため、地域資源であるNバスが掲載されていません。
- 公共交通を活かした環境問題対策、地域課題の解決を継続的に行うための視点から令和8年度の副読本（別冊）の策定に向けて取り組んでいきます。令和6、7年度の取り組みを踏まえ、令和8年度に編集委員を立上げ策定に向け進めていきます。
- 現行版は、冊子となっていますが、交通の分野は展開が早いことを踏まえ、デジタル版での作成も検討します。



もくじ	
発行によせて	2
この本の使い方	3
目次	4
南城市の小学校、中学校	5
1 もっと知りたいみんなのまち	8
(1) 南城市の小学校	8
写真で見る南城市のようす	13
(2) まちを探検しよう	14
① 高い所へ上って	14
② まず、計画を立てよう	16
③ さあ、まち探検に出発しよう	18
④ もっと調べてみたいな	22
⑤ まちの絵地図を作ろう	24
(3) 私たちの市の様子	32
① 市全体の様子	34
② 市役所の周辺	36
③ もとの玉城庁舎の周辺	37
④ 商店が多く集まっている所	38
⑤ 住たくの多く集まっている所	40
⑥ 遊びにおいてよわしたちの市	41
バスロードマップ	42
2 店で働く人と仕事	44
(1) 買い物調べをしよう	46
(2) 店を調べに行こう	50
(3) 上手な買い物をしよう	58
3 調べよう、物を作る仕事	62
(1) 工場ではたらく人と仕事	64
(2) 市内のいろいろな特産品	78
(3) さやいんげんを育てる	80
(4) 市の農家で作られているもの	88
4 さぐってみよう昔のくらし	90
(1) 昔の道具とくらし	90
(2) 昔の道具にふれてみよう	93
学校の歴史(年表)	102
5 安全なくらしとまちづくり	110
(1) 火事をふせく	112
(2) 事故をふせく(警察)	122
海を守る(海上保安)	126



もくじ	
発行によせて	2
この本の使い方	3
もくじ	4
1 健康なくらしとまちづくり	6
(1) 水はどこから	6
約285リットルって、どれくらい?	8
水を作る工場だ!	10
浄水場の先も調べよう	12
ダムから家庭まで	14
よみがえった水	16
(2) ごみはどこへ	18
こんなにたくさんのごみが...	18
ごみは、どこへ行くの?	20
ごみを減らすために	24
5R作戦にチャレンジ!	25
2 自然災害から人びとを守る	26
(1) 台風の影響をふせく	26
(2) 地震に備える	28
3 昔から今へと続くまちづくり	30
(1) まちの人たちが受けつづける行事	30
(2) まちに誇る文化・伝統をさがそう!	32
まちに誇る文化・伝統をさがそう!	32
東郷通り	34
(3) 地域の発展につくした人	36
海上警備隊	38
農民の子として生まれる	38
進学したい	40
めでたく中学校へ入学	42
農民の役に立ちたい	44
記念運動場建設と移住会館	46
南城市(旧玉城村)の偉大な政治家	48
(4) きょう土を働いた人びと	50
ダムができるまで	51
ダムができるから	52
ダム工事の様子	54
(5) 尚巴志と私たちの南城市	56
尚巴志について	57
尚巴志のかしこさと強さ	58
佐敷岡切の小さな痕跡から	58
王様になる夢を実現した尚巴志	60

現在の副読本

＝＝ 参考 令和５年度の佐敷小学校における取組 ＝＝

項目	内容
学習名称	南城市のNバスを利用した歴史史跡巡り（ふるさと学習）
学習のねらい	・南城市内を走るNバスを利用して、「市内歴史史跡巡り」を児童目線で創る過程の中で、自分たちの住む地域や南城市の良さについて再認識する。 ・地域の歴史等に目を向け、体験をしながら課題を発見し、小学生なりの方法で諸課題の解決のために積極的に関わり調査し実践力を養う。 ・自分たちの創ったNバスの利用が、これからの南城市の観光やまちづくりに貢献でき社会に働きかける機会となり、より自分事としてかかわる力を育てる。
実施内容	・総合的な学習の時間を柱に、各教科を横断的な学習として取り組んだ。平和学習を入口として、南城市内の平和史跡調べ、身近な平和に関連する史跡等の調査をした。 ・東京成徳大学の寺本先生を招聘し、エコを視点としてNバスの利用と自家用車を考え、比較検討しながら交通環境のあり方を自分なりに考えること目的にした授業をしていた。また、職員向けにも「授業の取り組みの説明」と「交通モビリティの考え」等の講話をしていただいた。 ・調べ学習や見学、聞き取り調査を通じて、市内に点在する平和史跡や市のよさを発信できる場所等を、Nバスを利用して巡るルートを自分たちで考え、Nバスの利用やその良さを提案した。 ・聞き取り調査の結果を踏まえ、外国の方々向けに南城市及びNバスのアピール用ポスターを英語で制作した。観光協会やNバスのセンターの協力を得て、市の道の駅「がんじゅう駅」でポスター掲示等を一か月間掲示し、情報発信をした。 ・ある学級では、Nバスで聞き取り調査をしている中で海岸の汚れに関心が向かった。海岸清掃を経てゴミや拾った物を利用してアート作品を制作した。作品はチャリティー販売され、収益金は能登半島地震復興のために寄付された。



▲寺本先生の授業の様子



▲Nバスの良さや提案の様子



▲聞き取り調査の様子



◀チャリティー販売の様子